

医学薬学教育部博士前期課程(看護学専攻)の三つのポリシー

【 修士(看護学) 】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)		研究科・教育部(専攻)の教育研究上の目的	
<p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>		<p>現代社会の多様な要請に応えるために、これまでに蓄積された看護学をはじめとする諸科学の成果を活用して、保健・医療・福祉の分野で高度な専門性をもって活躍できる高度医療専門職業人又は教育研究者を育成することを目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>【修士認定・学位授与の方針】</p> <p>・看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、一連の研究プロセスを網羅的に立案・展開できる研究能力を身に付けている。</p> <p>・看護の現状認識と将来の展望に立ち、保健医療福祉における課題を総合的・組織的に把握し、解決を図ることができ、看護の高度で専門的な職業人として国際的にも信頼・通用する卓越した知識・能力を身に付けている。</p> <p>上記の人材の育成を目的に、以下に示す「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」として、十分な学修成果を上げた者に修士(看護学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】</p> <p>・看護学専門領域における研究や学際的な動向について多角的に情報を収集し、より質の高い看護実践・教育を導く看護研究課題を設定し、研究論文作成・公表に必要な基本的研究方法を体系的に修得する教育課程を編成する。</p> <p>・看護の対象すなわち個人・家族・集団・コミュニティを包括的・全人的に理解し、学際的知見を総合的に取り入れ、国際的にも信頼・通用する確かな看護実践能力と指導力、さらに保健医療福祉に携わる専門職としてのマネジメント能力を体系的に修得する教育課程を編成する。</p> <p>・ホリスティックな看護と伝統的なケアを含めた統合医療の観点を取り入れ、高い倫理観のもと看護の根元を追究し続ける素養を修得する教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】</p> <p>本課程における教育は、授業科目の履修と学位論文の作成に関する指導により実施する。</p> <p>①1年次より、学位論文の研究課題・計画を検討する。倫理手続きを遵守し研究を遂行し、修士(看護学)の学位論文を作成する。</p> <p>②看護の指導者・研究者に必要な基盤となる共通科目と、各専門領域における質の高い実践を導き出す看護学特論を置く。</p> <p>③がん看護と母性看護の専門看護師教育課程(日本看護系大学協議会認定)を置き、看護専門領域の高度専門職業人を養成するコースを併設する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】</p> <p>本専攻では、看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、研究遂行能力または高度で専門的な職業人に必要な能力を養うという目的を理解し、次の資質をもつ学生を求めます。</p> <p>①高度な先端医療に対応できる技術、心理や生命倫理など全人的な理解、人々のQOLや自己回復を引き出す能力、保健医療福祉の課題などの熟達した対応が求められる分野で活躍したいと考えている者</p> <p>②看護の現状認識と将来の展望にたつて保健医療福祉の課題を総合的・組織的に把握し、課題に対応できることを目指す優れた看護実践のためのキャリア形成を求めている者</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>一般入試 専門科目(基礎看護学、成人看護学、母子看護学、老年看護学、精神看護学、地域看護学)と外国語(英語)の個別学力検査、面接を実施し、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる基礎的な知識、研究遂行能力等を評価する。</p> <p>社会人特別入試 書類審査(業績調書)、個別学力検査(英語)及び面接を実施し、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる看護実践実績及び(業務)研究実績、研究への関心・遂行能力等を評価する。</p>	
【学修成果の到達指標】	【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】	
<p>【学修成果】</p> <p>看護専門職・研究者として、知識基盤社会を多様に支える高度な知的能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>自ら研究課題を発見し設定できる。俯瞰的かつ批判的なもの見方で研究論文を読み、研究方法等を評価できる。</p> <p>他者を納得させることのできるコミュニケーション能力を修得できる。</p> <p>情報発信力・語学力を含めたコミュニケーション能力を修得できる。</p> <p>生涯を通じた研究マインドを涵養する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>看護の基盤となる理論と実践を学修する教育科目を置き、以下の必要な知識と研究遂行能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>①看護研究の意義、看護の現状分析、研究課題の検討</p> <p>②研究的視点から研究課題を見出し、科学的な過程をふまえた看護実践に寄与する研究能力</p> <p>③自己の研究課題に関連した先行研究に関する批判的検討、関連する研究方略</p> <p>④研究計画を実施してその結果をまとめ、得られた知見を社会化するための論文作成および発表</p> <p>【学修方法】</p> <p>対象を全人的・包括的に捉え、援助ニーズに対応した看護介入に関する理論の適用方法について教授する。</p> <p>看護事象を探究するために、看護実践の構造を明確にし、理論創出する手法について教授する。</p> <p>統計学の考え方、基本的手法、多変量解析、論文で使われる統計手法について教授する。</p> <p>対象の理解と支援に関する緒理論、臨床判断・治療に必要な知識を理解し、高度な看護実践について教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>評価は、論文審査において、自身の研究の看護学における意義に関する論述内容と、研究者として相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>看護という学問領域に関心を持ち、看護学研究を実施することの意義を理解し、価値をおく者</p>	
<p>【学修成果】</p> <p>看護専門職・研究者として、高度な専門的知識・能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>高度な専門的知識・関連する分野の基礎的素養を涵養する。</p> <p>自らの研究分野以外の幅広い知識を応用できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>卓越した看護実践を導く教育科目を置き、以下の必要な知識と研究遂行能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>①看護理論の特徴、看護学の実践・教育・研究の特徴、基盤となる知識、看護の教育・研究領域の課題と方向性の探求</p> <p>②看護実践のモデルとアセスメント方法</p> <p>③看護専門職の機能とその機能を駆使する方法と社会的責任</p> <p>【学修方法】</p> <p>看護実践のうえで必要となる人間の心理・行動原理について教授する。</p> <p>全ライフサイクルにおいて、病を持つ人から健康の維持・増進する人とその家族への、看護実践基盤となる主な理論とその概念、看護課題としての的確なアセスメント、必要なケアを探究する教授方法を実施する。</p> <p>保健医療福祉に関連する最新の知識・技術を獲得する方法と、看護実践領域への適用について教授する。</p> <p>対象の包括的アセスメント能力と高度な看護実践のための方略を探究する教授方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>評価は、論文審査において、自身の研究の看護実践上の意義に関する論述内容と、研究者として相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>より質の高い看護実践を提供するために、研究的アプローチによることの意義を理解し、価値をおく者</p> <p>看護の高度で専門的な職業人としてのキャリアを積むことに価値をおく者</p>	
<p>【学修成果】</p> <p>看護専門職・研究者として、高い倫理性・倫理観を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>看護倫理について深く理解できる。</p> <p>看護の学識者としての倫理観を備えられる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>看護・研究倫理に関する教育科目を置き、以下の必要な知識と研究遂行能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>①看護倫理の独自性の基礎をなすケアリング</p> <p>②看護場面で向き合う健康課題や問題に対する倫理的判断</p> <p>③研究の全過程における倫理的配慮</p> <p>【学修方法】</p> <p>看護の対象の特性に見合った、倫理的課題を検討する教授方法を実施する。</p> <p>患者や家族の擁護の立場から、安全なケア環境を促進し、倫理的実践の普及を志向する教授方法を実施する。</p> <p>倫理原則、研究倫理ガイドラインを活用する方法を教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>評価は、論文審査において、自身の研究倫理に関する論述内容と、研究者として相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>看護学領域の研究を遂行するにあたり、高い倫理観を有する者</p>	

<p>創造力</p>	<p>【学修成果】 看護専門職・研究者として、地域社会・文化規範の中で責任を果たしうる創造力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 学際的な分野への対応能力を含めた専門的知識を活用・応用できる。 現状の課題分析と方略策定ができる。 保健医療福祉に携わる専門職の協働においてマネジメントできる。 国際性、国際的な通用性、信頼性の向上、世界の多様な文化・歴史を理解できる。</p>	<p>【学修内容】 看護の学際性に関する教育科目を置き、以下の必要な知識と研究遂行能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。 ①多職種連携における看護職の役割、チーム医療における看護の専門性と協働のあり方 ②人びとの健康な社会生活に貢献する制度政策への看護の戦略的・政策的働きかけの方法</p> <p>【学修方法】 現代社会で求められる看護専門職としてのあり方、現状と課題、将来の方向性を考える教授方法を実施する。 保健医療福祉および看護政策の現状と課題、公的サービスの理念を教授する。 各国における保健医療福祉政策、看護政策の現状と課題について比較検討する教授方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、論文審査において、自身の研究の発展可能性に関する論述内容と、研究者として相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 看護学の研究者として、生涯学び、自己研鑽することの意思を有する者</p>
------------	--	--	---